

「奈良県畜産技術センター研究開発中期運営方針(案)」策定の趣旨

畜産技術センター

(1) 方針案を作成した趣旨、目的及び背景

当センターは、県内唯一の畜産試験研究機関として、養鶏、養豚、養牛、草地の各部門の研究を担ってきました。しかし近年、高病原性鳥インフルエンザや豚熱など家畜伝染病リスクの高まり、資材や飼料価格の高騰、さらには気候変動による猛暑など、畜産農家の収益性を圧迫する社会情勢の急激な変化が生じています。このような状況を踏まえ、現場のニーズに即した研究を計画的かつ戦略的に推進し、持続可能な畜産業の実現と県民の食生活向上を目指すために、本方針案を策定します。

(2) 方針案の概要

別添「奈良県畜産技術センター研究開発中期運営方針(案)の策定について」のとおり

(3) 計画等の案に関連する次に掲げる資料

ア 根拠法令 該当なし

イ 計画の策定及び改定にあつては、上位計画の概要

「奈良県豊かな食と農の振興計画(令和8年4月1日策定 予定)」

計画の期間：令和8年度～12年度

食と、それを支える農に関する各種施策の総合的かつ計画的な推進を図ることを目的に策定。施策の基本方向を「持続可能な農業を振興し、奈良県の豊かな食を支えます」とし、2つの柱「持続可能な農業振興」、「食の魅力向上」が示されている。畜産分野の研究は、「持続可能な農業振興」において、県産畜産物のブランド力強化や環境に調和した畜産を推進するための研究開発が組み込まれている。

(現在、同時にパブリックコメント実施中)

ウ 計画等の立案に際して整理した論点

「奈良県畜産技術センター研究開発中期運営方針(案)」の策定にあたっては、畜産農家の意見を踏まえながら、食と農の振興施策や環境の変化に対応する視点で素案を作成した。令和7年9月には、生産者団体、消費者団体、関係機関、学識経験者などを交えた奈良県食と農の振興会議畜産振興部会で検討を行った。重点目標は「県産畜産物のブランド力強化」と「環境に調和した畜産の持続性確保」の2つに整理した。